

ふくすうのおとのべんきょう 1ぽじしょん

ぽじしょん：1のゆびが、なんふれつとおさえるかをあらわす。



(しゃーぷ)：はんおんたかくなる→おさえるばしょが1ふれつとみぎになる。

b (ふらつと)：はんおんひくくなる→おさえるばしょが1ふれつとひだりになる。

♩ (なちゅらる)：#、bのこうかをなくす。もとのたかさにもどる。

1 2 3 4 5 6

2 7 8 9 10 11 12

3 13 14 15 16 17 18

4 19 20 21 22 23 24

5 25 26 27 28 29 30

ふくすうのおとのべんきょう 1ぽじしょんで気をつけること

○指の助っ人制度

異なる弦で同じフレットをおさえる時は、担当の指とそれより番号の大きい指でおさえる。

この時、低い音は番号の小さい指がおさえる。

例)④弦3フレットと②弦3フレットをおさえる場合

④3 F は、担当でもあり番号の小さい3の指がおさえる。

②3 F は番号の大きい助っ人の4の指がおさえる。

○おさえる場所

一番左のフレットをおさえる指はフレットのそばをおさえる。

※開放弦は含まない。

それ以外の指は、できるだけ指を横にひらかず、フレットとフレットの真ん中あたりをおさえてよい。

音符とフレットの場所を結ぶ練習なので、音はしっかりならなくて良い。

※指をたたんで、指先でおさえられるようになると音は出ます。

○おさえる時に左指、左肩の力を抜く

曲を弾くための準備として、弦をおさえる時に必ず左指と左肩の力を抜く。

特に3,4の第2関節がへこんだら、力が入りすぎなので力を抜く。

《複数の音 2音 1 ポジション解答》

低い音から順番に書いております。

○で囲まれた数字は弦を、Fはフレットを表します。(例)⑤ 3 F → 5弦3フレット

①0F → 1弦開放弦

- ①⑤3F ①0F
- ②⑤0F ③2F
- ③④0F ①1F
- ④⑤2F ②3F
- ⑤④3F ②3F
- ⑥④0F ③2F
- ⑦⑥1F ②1F
- ⑧⑥3F ①1F
- ⑨③2F ①1F
- ⑩③4F ②3F
- ⑪⑤3F ④2F
- ⑫③0F ②0F
- ⑬④1F ②1F
- ⑭③0F ①3F
- ⑮④3F ①3F
- ⑯⑥0F ④0F
- ⑰⑥3F ②3F
- ⑱④3F ②0F
- ⑲②1F ①0F
- ⑳④3F ③2F
- ㉑③1F ②1F
- ㉒④0F ②1F
- ㉓②3F ①1F
- ㉔⑥2F ②1F
- ㉕③3F ①1F
- ㉖⑥1F ①1F
- ㉗④2F ③0F
- ㉘③2F ②4F
- ㉙④3F ②2F
- ㉚⑥0F ②3F